



総 ــــــــــــــــ 359

平成30年6月22日

防衛大臣 小野寺 五典 様

秋田県知事 佐竹 敬久



イージス・アショアの配備候補地選定に係る質問について

この度、秋田市の陸上自衛隊新屋演習場をイージス・アショアの配備候補地とし、調査に入りたいとの意向が示されましたが、県民から不安の声が上がっていることから、別紙のとおり、同演習場への配備の背景と根拠、住民不安の解消、導入予定装備の合理性等の各項目について質問いたしますので、回答をお願いします。

また、本質問への回答後、状況の変化等により回答が変わる場合には、変更後の回答を速やかに御連絡いただくようお願いいたします。

なお、今後も再度、質問や協議を行う場合がありますので、あらかじめ御承知願います。

## 新屋演習場をイージス・アショアの配備候補地とすることについての質問

### 1. 新屋演習場への配備の背景と根拠

#### (1) イージス・アショアの導入の必要性

現在の国際的状況等の下で早急に配備を進める必要性の有無について

昨年未だに「北朝鮮の核・ミサイル開発は、我が国の安全に対するより重大かつ差し迫った新たな段階の脅威になっている」として、イージス・アショアの導入を閣議決定した。

しかし、南北首脳会談や米朝首脳会談が行われるなど、北朝鮮が強硬姿勢から対話姿勢に転じ脅威が薄らいできている現在の状況においても、イージス・アショアを早急に配備する必要があるのか。

6月21日に、政府がミサイル避難訓練を中止するとの報道があったこととの整合性はどうか。また、仮に新屋演習場にイージス・アショアを配備するとしても、実機の配備は数年先と思われ、その間、北朝鮮の非核化が具体的に進むなど、朝鮮半島情勢が更に緩和局面に入った場合、イージス・アショアの配備そのものや、自衛隊施設以外も含めて改めて最適地の選定をし直すなど、変更する余地はないのか。

#### (2) 新屋演習場への配備についての合理性

今般導入予定のイージス・システムは、迎撃ミサイルの射程距離が長いことなどから、マクロ的に見た場合、その配備位置は幅広く選定できるものと思料されるが、何故「新屋演習場」が最適候補地となったのか。

(昨年、佐渡市や男鹿市加茂が候補地との報道も存在した)

・地政学的にどのようなところが適当であるのか。

北と西に2基をバランス良く設置できる日本海側の地域等との理由で選定したとのことだが、新屋演習場を選定した理由は何か。

・住宅密集地に隣接していても問題はないのか。

選定する際の条件に住宅密集地など周辺環境が考慮されていないのではないか。新屋演習場は住宅密集地に隣接しているほか、狭隘で緩衝地帯もなく、テロや基地内での偶発的な事故の可能性があり周辺に被害が生じると思われるが、それでもなお最適候補地と言えるのか。

・既存施設でなければならないのか。

速やかに配備する必要があるとのことだが、自衛隊の施設等でなくとも、他の国有地等でも早期の配備が可能ではないか。

仮に他の国有地等で早期の配備が難しいとしても、イージス・アショアが相当長期間に渡って使用する施設となるのであれば、少し時間をかけてでも、もっと幅広く適地を選定すべきではないか。

・既存施設の中で新屋演習場が選ばれた理由は何か。

北の日本海側には多くの既存施設があると思うが、その中で、新屋演習場を最適とした理由は何か。

6月14日の県議会の全員協議会で、事前の調査や検討に基づいて新屋演習場が他の候補地より最適であるとして選定したとのことだったが、具体的にどのような調査や検討を行ったのか。情報公開の範疇で対応するとのことだったが、本質問状の回答によって明らかにされたい。

・外部から攻撃を受けやすいのではないか。

新屋演習場は、周囲の高台や高層建築物等から演習場内が見渡せ、また、細長く幅が狭い形状であるため外部からの攻撃を受けやすいと思われるが、イージス・アショアを配備する場所として適していないのではないか。

・近くの海岸線等に風力発電のための風車が多数設置されているが、レーダーの運用に支障があるのではないか。

新屋演習場周辺には風力発電用の風車が多数設置されており、今後増えていくことが想定されるほか、老朽化した風車を更新する際には、現在の風車より大型化することも考えられ、レーダーの運用に大きな影響が生じることが懸念される。

また、風車は民間企業が設置しているものであり撤去等は難しいと思われる。以上の点からも、新屋演習場はイージス・アショアの配備に適していないのではないか。

・津波が発生した場合でも問題はないのか。

ハザードマップでは新屋演習場は冠水しないが、周辺が冠水することで電気や水道が一定期間途絶する恐れがあり、候補地選定の条件(インフラの観点)が必ずしも適切ではないのではないか。

電気は自家発電で対応するとしても、水道はどうするのか。

### (3) 中長期的な展望

今後、装備の更新等により、敷地の面積等の制約から新屋演習場が相応しくない場所になる可能性もあると思われるが、こうした視点からの検討は行っているのか。

一般的に兵器は、性質上ファーストアセットを基にしながらも日進月歩で進化していくものであり、中長期的には当初配備したものに比べ、より高性能なものへの配備替えも想定される。

これに伴い敷地の利用範囲が拡大する可能性もあり、新屋演習場が住宅密集地に近く、面積的にも制約される状況下で、現時点で同演習場の地理的位置が地政学的に配備には合理性があるとした場合であっても、中長期的に相応しいかという課題も生じるのではないか。

この点についての検討は行っているのか。

## 2. 住民不安の解消

### (1) 県民への丁寧な説明

県民の不安に対して、どのように説明をしていく予定か

- ・ 国防に対する県民の協力や理解をどのように得ようとしているのか。

本県においては、これまでも、災害出動など自衛隊の貢献により県民の国防への理解度が高く、長く協調関係を維持してきたが、この良好な関係を崩すことなく県民の協力や理解を得るためには、どのようなことが必要と考えているか。

- ・ 配備候補地の選定からアセット内容決定の最終段階に至るまでの各段階において、県民や県民の代表である議会などへの説明が必要ではないか。

入札公告前の説明会を開催していただいたが、今後の調査の状況や調査結果、最終アセットの内容等について、引き続き、各段階ごとに、県や県民、県民の代表である議会への説明が必要と考えるがどうか。

## (2) 配備に伴う住民の安全性への懸念

### ①レーダーに起因する電磁波等の影響について

- どのようなレーダーを配備する予定なのか。

配備しようとするイージス・アショアには、SPY-1が搭載されるのか。現在開発が進められているSPY-6になるとの報道もあるが、レーダーの種類によっては、住民の健康への影響が変わることはないのか。

- 電磁波の強さや住民の健康や通信機器等に与える影響

無線LANなどと同じSバンドの周波数帯でX線やγ線とは異なるとのことだが、どの程度の強さの電磁波が発生するのか。電磁波の強さによっては、住民の健康や通信機器等に与える影響があるのではないのか。

14日の県議会の全員協議会では、住民の生活圏と一定程度離れていると大丈夫とのことだったが、データを示されたい。また、事前の調査や検討では住民に影響を与える可能性は低いとのことだったが、その内容を明らかにされたい。今後の調査は徹底的に行うとのことだが、事前の調査や検討との違いは何か。

- レーダーは常時照射するのか、ミサイル追尾時のみの照射か。

レーダーは常時照射か、他のレーダーシステム等とのデータリンクによるミサイルターゲット追尾時のみの照射か。

- 電磁波の測定と測定結果の公表

イージス・アショアからの電磁波の影響を把握するためには、配備前の電磁波の測定、配備後の定期的な電磁波の測定を行うべきではないか。

また、測定結果については、中立的な第三者による監査を受けるべきではないか。

- 電波法等の規制内容

電波法や総務省が定める電波防護指針を遵守して運用することだが、電波法等で定めている規制の内容はどのようなものか。

- 飛行機等への影響（飛行禁止区域が設けられるのか）。

秋田空港における航空機の離発着やドクターヘリの運行等に影響はないのか。周辺地域の飛行制限など各種規制は生じるのか。仮に当初は規制がなくても、装備体系の更新や性能向上に伴い規制が強化される可能性はないのか。

- ・電源は電力会社からの供給と自家発電のどちらが主体か（発電装置などによる騒音は発生しないのか）。

最適候補地の選定では、電気の安定的な供給が見込める場所という観点があったが、電源としては電力会社からの供給と自家発電のどちらが主体となるのか。テロや津波等への対応を考慮すると、自家発電を中心とすべきと考えられるが、その場合、候補地選定の条件（インフラの観点）が必ずしも適切ではないのではないのか。

また、発電装置などが、周囲に騒音を与える可能性はないのか。

- ・レーダーの向きによっては周辺住民への影響が懸念されるが、サイドローブ対策などの具体的な措置をどのように行うのか。

人の存在する地表に向けてレーダーを照射することはないとしているが、サイドローブが発生して影響を及ぼす可能性があるのではないのか。また、その場合、具体的にどのような対策を講じていくのか。

イーグス・アショアに巡航ミサイル迎撃能力を持たせる場合についてはどうか。

- ・既存のレーダーサイトについて

自衛隊が保有する既存のレーダーサイトの数、個別の場所、レーダーから一定の距離（例えば1 km、2 km、3 km等）内の民家の数を示されたい。

## ②発射時の噴出ガス等の影響について

- ・発射実験について

14日の県議会の全員協議会では、仮にイーグス・アショアが配備されることになった場合、発射実験は行わないとのことであったが、有事の際の使用に支障が生じないとする具体的な根拠を示されたい。

- ・発射の際に迎撃ミサイルが噴出するガス等は、どの程度の範囲にどのような影響を及ぼすのか。

ミサイルを発射する際にはガスが噴出するが、実戦や発射実験などで実際に発射する場合はどの程度の範囲にどのような影響を及ぼすのか。VLS（垂直発射装置）の配置状況によって影響範囲は変わるのではないのか。14日の県議会の全員協議会では、一定の保安距離を取るとのことだったが、保安距離は具体的にどれくらいか。その根拠は何か。また、騒音や衝撃について住民に影響を与えることはないとの答弁だったが、具体的な根拠は何か。その点も含めて調査を行うのか。

・周辺住民への影響を防ぐための具体的な措置をどのように行うのか。

発射される場合の周辺住民への影響を防ぐために、具体的にどのような措置を講じていこうとしているのか。

・仮に発射実験を行う場合には、県と事前の協議等を行うのか。

仮に発射実験を行うことになれば、周辺住民等にも影響が出ると思うが、県と事前に協議等を行うのか。

### ③想定している防御体制・危機管理体制（テロ、直接攻撃等への対応）について

・防御体制について

イージス艦の場合は、艦隊防衛と個艦防衛のため対空対艦の防御兵装を多重に施しており、また、航空自衛隊の基地や主要な防衛施設には、施設内あるいは近郊にPAC-3や11式短距離地对空誘導弾、VADS（バルカン・エアー・ディフェンス・システム）を配備しているが、イージス・アショアへの直接攻撃に対するこのような多重防御兵装は配備する予定があるのか。

・配備エリアに対するテロ、周辺道路や海岸部からの携帯式ミサイル・ドローン等による攻撃も考えられるが、住民に危険はないか。

新屋演習場は面積が狭く、周辺道路や海岸部から携帯式ミサイル程度での攻撃でも射程に入り、ドローンのような軽装備攻撃機器による攻撃も簡単にできると思われるが、周辺の住民に危険はないのか。

・警備をどのように行うのか（例えば、海上も含めてエリア周辺はどのように警備するのか、警備は自衛隊が行うのか）。

テロ等の攻撃対象となることも考えられるが、海上を含めて周辺の警備をどのように行うのか。イージス・アショアの運用は陸上自衛隊が行い、要員としては100人程度が目安との報道もあったが、十分な警備態勢が敷けるのか。14日の市議会の全員協議会では、人員は100人以上、警備も加えると数百人規模となるとの説明があったが、どちらが正しいのか。

100人程度では、十分な警備体制が敷けるとは考えられず、新屋演習場の地理的特徴に鑑み、要員を特に増強して警備体制をより手厚くすべきではないかと考えるがどうか。

- ・警備は県警にも協力を求めるのか。

警備対策については警察とも連携して必要な体制をとっていくとのことだが、県警にも協力を求めるのか。求めるとした場合、どのような協力内容を想定しているのか。また、人的な補填措置や経費についての財政的補填措置などは考えているのか。

- ・テロや有事の際の対応について、どのように想定しているのか。

テロや有事の際には、自衛隊による応戦、自治体への連絡、住民の避難等、様々な対応が必要となるが、具体的にどのようにするか想定しているのか。

- ・テロや有事の際の住民向けの訓練は行うのか。

テロや有事があった場合に備えて、住民に訓練などを行うことを想定しているのか。

- ・VLS（垂直発射装置）は地下サイロ方式と地上配備方式のどちらを採用するつもりなのか。

VLSが地上にあると周囲から見えることから、攻撃の目標とされる可能性が高くなると考えられるほか、景観上も良くないが、地下サイロ方式と地上配備方式のどちらを採用するつもりなのか。

演習場の敷地内におけるVLSの配置状況により、テロ等の危険性も変わると考えるが、この点も含めて方式を検討するのか。

また、一般的にはモジュールを分散配備するものと思われ、その場合、新屋演習場の面積から考えれば相当窮屈な配置になると推測されるが、その点についてどう考えるか。



### 3. 導入予定装備の合理性等

#### (1) 国が計画している3段階の迎撃態勢の合理性・有効性

BMD態勢については、①現在のイージス艦とPAC-3の2段階防御、②イージス艦、イージス・アショア、PAC-3の3段階防御、③イージス艦、THAAD、PAC-3の3段階防御などが考えられる中、②をベストとして閣議決定した理由について

BMD態勢については、専門家の中にも様々な意見があり、イージス・アショアは備え置き型で移動できないため、攻撃の標的になりやすいなどの問題点が挙げられているが、防衛省としてイージス艦、イージス・アショア、PAC-3の3段階防御を選んだ理由は何か。

THAADはイージス・アショアに比べて導入費用は高いと言われているが、住民への影響やテロ対策を考慮に入れると、THAADの方が望ましいという意見について、どのように考えるか。

#### (2) 最終段階のアセットの見通し

現在迎撃ミサイルとして想定しているSM3ブロックII Aの試射が2回連続で失敗しており、実際に配備される時点では、その他の装備も含め、現在想定しているものと性能等が異なるものに変更される可能性があるが、最終段階のアセットでの検証・説明が必要なのではないか。

- ・ SM3ブロックII Aの試射が2回連続で失敗しているが原因は何か。

迎撃ミサイルとして想定しているSM3ブロックII Aは、過去3回の迎撃試験のうち2回失敗している。1回目は人的要因による失敗と聞いているが、2回目の失敗の原因については、致命的なものではないというのみで詳細は明らかにされていないことから、具体的な原因を明らかにされたい。

- ・ 迎撃ミサイルとしては何が配備されるのか（ミサイルの種類によって最適な配備場所も変わる可能性があるのではないか）。

迎撃ミサイルとしては何が配備されるのか。今後、配備される迎撃ミサイルが変わる場合、ミサイルの種類によっては、新屋演習場が最適候補地でなくなる可能性もあるのではないか。

- ・レーダーシステムは、現在のSPY-1からSPY-6に変更される可能性があるのではないか。

レーダーはSPY-1となるのか。現在開発が進められているSPY-6になるとの報道もあるが、変更される可能性はあるのか。SPY-6が採用された場合、新屋演習場が最適候補地でなくなる可能性はないのか。

### (3) 今後のスケジュール等

- ・調査の内容やスケジュールの公開について

地域住民は、調査そのものに対しても不安を感じていることから、調査の内容やスケジュールについて、情報を公開しながら行っていただきたいがどうか。調査内容として地質測量調査や電波調査が示されているが、これに加え、住民の健康や経済活動、日常生活への影響がないかといった点についても、重点的に調査し公開すべきと考えるがどうか。

6月21日に防衛省と東北防衛局において、イージス・アショア関連の入札の公告が行われたが、この入札による調査においては、上記の点について十分に配慮されているのか。また、各入札に係る入札説明書について提供されたい。

- ・調査の開始時期の変更の可能性について。

入札の事務と住民への説明を並行して行うとしても、地元住民の感情に配慮して当初のスケジュールに拘ることなく、例えば予算の繰越し措置により調査の開始時期を当初の予定より遅らせることが出来ないか。

- ・調査結果について。

調査の結果についても、きちんと情報を公開していただきたいがどうか。また、今回の調査で、新屋演習場に決定的な不具合がある場合、候補地が変更されることがあり、まだ新屋演習場への配備は決まっていないという理解で間違いはないか。

6月1日の政務官の説明では、新屋演習場は最終候補地ではないとのことだったが、14日の県議会の全員協議会では、配備の可能性が高いとのことだった。2つの説明でニュアンスが大きく異なる理由は何か。

- ・ 配備先の正式決定や運用開始時期等の見通しはどうか。

最終アセットが決まらなると正確な調査が出来ないし、配備先を正式に決定することも出来ないと思うが、正式決定時期はいつか。また、仮に新屋演習場が配置地となった場合、基盤整備、道路整備、実機配備など、運用開始までのスケジュールをどのように考えているのか。

#### (4) その他

- ・ 他国におけるイージス・アショアについて。

ルーマニアで既にイージス・アショアが配備され、ポーランドで配備予定と認識しているが、それぞれのイージス・アショアの配備地の形状（長さ、幅、面積、敷地内のレーダーやVLSの配置場所等）はどのようなものか。また、周囲の住宅の状況等（距離ごとの戸数や人数、学校などの施設）はどうか。

配備に伴い、周辺住民の日常生活や経済活動等に支障は生じていないのか。また、今後生じるおそれはないのか。

ハワイで配備されている実験施設についてはどうか。

- ・ 経済的な損失について

今後、隣接地への福祉施設の整備計画や、風力発電用の風車の新たな設置、大型機への更新の計画もあるが、例えば、福祉施設の場合は利用者が少なくなることや、周辺の学校においては入学希望者が減少することもあり得る。また、周辺の地価への影響なども危惧されるが、このような経済的な損失への対応についてはどう考えるか。